

18th NIPPON SCOUT JAMBOREE

ジャンボリープログラムガイド



目次

- 【1】 はじめに
- 【2】 ジャンボリーのプログラム
- 【3】 パイオニア章チャレンジ（ボーイスカウト）
- 【4】 パイオニア章チャレンジ（ベンチャースカウト）
- 【5】 ジャンボリーのプログラムに参加するには
- 【6】 ジャンボリーのプログラムシート
- 【7】 ジャンボリー広場

プログラムヒント

- ① ジャンボリー日本一プログラム
- ② 信仰奨励プログラム
- ③ SDGsプログラム
- ④ ジャンボリー生活プログラム
- ⑤ 奉仕、地域貢献プログラム
- ⑥ 交流プログラム

【指導者の方へのお願い】

（参考資料）参考資料 パイオニア賞認定についての解説

【1】はじめに

1 ようこそジャンボリーへ

スカウトのみなさんへ

ボーイスカウトの祭典ジャンボリーが始まります。

ジャンボリーは今回で18回目を迎えます。

第17回までのジャンボリーは4年ごとに全国各地に会場を設定し、その会場に全国からスカウトが集まってきました。今回は新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、1か所に集まるのではなく、全国各地で、各ブロック、県連盟（※ブロックや県連単位で開設される会場を「サテライト会場」といいます。）、地区または隊で分散して実施することになりました。また、ジャンボリーサマーの期間を設定し、この期間中ジャンボリーのプログラムに参加することができます。このジャンボリーの形態は新しい取り組みです。全国のさまざまなフィールドで、同じ夏空の下、日本中の仲間たちと同じ時間を過ごし、スカウティングの楽しさを分かち合いましょう。

第18回日本スカウトジャンボリー（以降18NSJと表記）のテーマは、「100+f～自分のfを探せ～」日本連盟創立100周年記念大会として、100年間の歴史を振り返り、これからの100年を築き上げる契機となるよう、自分の「f」を探して未来に向かっていくテーマを設定しています。

参加するスカウトのみなさん一人一人が多く仲間と交流し、プログラムにチャレンジし、楽しいジャンボリーとなるよう願っています。

2 ジャンボリーとは

ジャンボリーは全国的あるいは国際的に行われるボーイスカウトの祭典です。

ジャンボリーには世界ジャンボリー、国や地域で開催されるジャンボリーがあります。

日本スカウトジャンボリーは4年ごとに全国各地で開催され、今回のジャンボリーは18回目に当たります。

日本スカウトジャンボリー

回数（実施年）	場所	回数	場所
1（1956年）	長野県・軽井沢	10（1990年）	新潟県・妙高高原
2（1959年）	滋賀県・饗庭野	11（1994年）	大分県・久住高原
3（1962年）	静岡県・御殿場	12（1998年）	秋田県・森吉山麓
4（1966年）	岡山県・日本原	13（2002年）	大阪府・舞洲
5（1970年）	静岡県・朝霧高原	14（2006年）	石川県・珠洲
6（1974年）	北海道・千歳原	15（2010年）	静岡県・朝霧高原
7（1978年）	静岡県・御殿場	16（2013年）	山口県・きらら浜
8（1982年）	宮城県・白石蔵王	17（2018年）	石川県・珠洲
9（1986年）	宮城県・白石蔵王	18（2022年）	全国各地で分散開催

日本で開催された世界スカウトジャンボリー

回数（開催年）	場所
13（1971年）	静岡県・朝霧高原
23（2015年）	山口県・きらら浜

3 ジャンボリーのプログラム

ジャンボリーのプログラムは共通プログラム、サテライトプログラム（隊キャンププログラム）、全体プログラムで構成されています。

（1）共通プログラム

- ①ジャンボリー日本一プログラム
- ②信仰奨励プログラム
- ③SDGsプログラム

（2）サテライトプログラムもしくは隊キャンププログラム

- ①ジャンボリーの生活（キャンプ）プログラム
- ②各会場やキャンプ地でのプログラム
- ③奉仕、地域貢献プログラム
- ④交流プログラム

（3）全体プログラム

東京ジャンボリー大集会（参考 <https://18nsj.scout.or.jp/ceremony>）

Information

- ・ジャンボリーのプログラムの参加方法は【5】「ジャンボリーのプログラムに参加するには」を確認してみましょう
- ・ジャンボリーのプログラムにチャレンジして、課目ができると「18NSJパイオニア賞」が授与されます。
 - ➔ 【3】「パイオニア賞にチャレンジ（ボーイスカウト）」
 - ➔ 【4】「パイオニア賞にチャレンジ（ベンチャースカウト）」
- ・ジャンボリーのプログラムにチャレンジしたら、ぜひ活動の様子や成果を、SNSをつかって【7】「ジャンボリー広場」で発信してみましょう

※ 指導者の方は、【指導者の方へのお願い】を確認ください

【2】ジャンボリーのプログラム

ジャンボリーのプログラムは共通プログラム、サテライトプログラム（隊キャンププログラム）、全体プログラムで構成されています。

1 共通プログラム



① ジャンボリー日本一プログラムについて

班やグループごとに18NSJアプリから記録を報告します。報告された各地の班の成績を大会本部で集計して、全国での順位を発表します。記録は日々更新され、18NSJアプリ等を通じて随時記録を見ることができるようになります。3つすべてのプログラムにエントリー可能で、班の希望により1つでもエントリーできます。また、何度でも報告することができますので、何度でもチャレンジし、記録を更新してください。報告のあった記録から各プログラムの上位3位までを「ジャンボリー日本一」と認定し、「ジャンボリー日本一記賞」を授与します。

- ・わが旗かざし 「班旗立て」
- ・火を絶やすな 「火おこし」
- ・ジョン・プラン 「手旗信号リレー」

Check パイオニア賞課目 ➡ **パイオニア賞 課目2（1）**
ジャンボリー広場 ➡ **①日本一プログラムランキング**



② 信仰奨励プログラムについて

サテライト会場や地区、隊のキャンプで、「信仰奨励プログラムの時間」を設定します。この時間は、それぞれが信仰する教宗派の作法による「宗教儀礼」への参加、もしくは、班や隊で「スカウトカウンセラーサービス」を行います。静かな場所で「平和」や「感謝」などについて考え、話し合いをすることもいいと思います。

Check 18NSJ公式サイト「**信仰奨励プログラム**」
パイオニア賞課目 ➡ **パイオニア賞 課目1（4）**



③ SDGsプログラムについて

事前にオンラインでSDGsプログラムについての基本的な知識を身につけます。班で話し合い、ジャンボリー期間中に取り組む目標を決め、目標を達成するための取り組みを実行します。

例えば、

- 食材の廃棄を限りなくゼロにできるメニュー作り（2. 飢餓をゼロに）
 - 安全な飲み水を作る（6. 安全な水とトイレを世界中に）
 - プラごみバスターズ大作戦に参加しませんか プラごみバスターズ大作戦 (scout.or.jp)
- ジャンボリーに協力いただく企業からのプログラム提供もあります。

Check パイオニア賞課目 ➡ **パイオニア賞 課目1（5）**
ジャンボリー広場 ➡ **②SDGs活動紹介**

2 サテライトプログラムもしくは隊キャンププログラム



① ジャンボリーの生活（キャンプ）プログラムについて

ジャンボリー期間中のキャンプ生活を、安全で快適にするためのプログラムです。以下の項目について、班や隊で話し合い、実践してみたいかがでしょうか。

- キャンプサイトの配置図作り
- キャンプサイトの設営やキャンプ生活に必要な仕事の分担
- おいしい食事作り、環境に配慮した炊事方法
- ジャンボリー前のキャンプ技能（結索、炊事、テント設営など）の習得
- 怪我をした時の応急手当スキルの習得

班や隊でジャンボリーの生活を安全で快適にするために、まだまだたくさんの取り組みがあると思います。一人一人がバラバラに取り組むのではなく、班長が中心となって取り組むことが大切です。

Check パイオニア賞課目 ➡ **パイオニア賞 課目1（3）**
ジャンボリー広場 ➡ **③キャンプライフ自慢 ④チームワーク・仲間自慢**

② 各会場やキャンプ地でのプログラム

各県連盟やブロックで開設されるサテライト会場では、会場の特徴を活かした様々なプログラムが展開されます。また、ジャンボリーサマー期間中、隊ではキャンプをはじめ様々なプログラムが展開されると思います。スカウト技能、スカウト精神を発揮できるプログラムが予定されています。



③ 奉仕、地域貢献プログラムについて

ジャンボリーサマー期間中、サテライト会場やキャンプ地やその周辺で、取り組む奉仕活動や地域貢献活動を計画し、実施しましょう。

例えば、清掃活動、配給作業の支援、水場の衛生管理作業などがあげられます。どんなことが必要か、他の人たちのために何ができるかを考え、取り組むことがポイントです。

Check パイオニア賞課目 ➡ **パイオニア賞 課目1（2）**



④ 交流プログラムについて

サテライト会場、隊キャンプなどを含み、ジャンボリーサマーには1万人を超える日本中のスカウトが参加しています。サテライト会場で隣りどうしの班や隊と交歓することやネット環境があればネットをとおして交歓することもできると思います。感染症対策をしっかりとした上での、キャンプファイヤー、スワップなど様々な取り組みが考えられます。ジャンボリーの事前準備でどんな交流をするか検討し、準備をしてください。

Check パイオニア賞課目 ➡ **パイオニア賞 課目2（2）**
ジャンボリー広場 ➡ **⑤18NSJ交流掲示板**

(3) 全体プログラム

東京ジャンボリー大集会 2022年8月7日（日）YouTubeで東京の会場から全国に生配信
楽しいプログラムが用意されています。

Check 18NSJ公式サイト ➡ **「大集会」** <https://18nsj.scout.or.jp/ceremony>

【3】パイオニア賞にチャレンジ（ボーイスカウト）

ジャンボリー、ジャンボリーサマー（以下、ジャンボリー、ジャンボリーサマーを含め、ジャンボリーと略す）期間中に、以下のパイオニア賞課目のすべてを修了したスカウトに対し、大会長名をもってパイオニア賞を授与する。

≪認定区分≫ □…隊長認定 △…上級班長認定 ▲…班長認定

1 基本

（1）「ちかい」と「おきて」の実践

- ・ジャンボリーの生活の中で「ちかい」と「おきて」を実践していることを班長会議で認めてもらう。

□ / _____

（2）日々の善行（奉仕）、貢献活動

- ・ジャンボリー期間中、1日1回以上善行に取り組む。
- ・サテライト会場内外やキャンプ地周辺の地域に対し貢献活動を班で企画し、実施する

▲ / _____

▲ / _____

（3）ジャンボリーの生活

- ・キャンプ生活を快適するために、班で話し合い、日々の改善に取り組む。

△ / _____

- ・キャンプ生活の環境衛生（感染症感染予防、サイト内の整理整頓など）に取り組む。

▲ / _____

- ・班で話し合い、キャンプ生活に役立つ、工夫されたキャンプ工作物を作成する。

▲ / _____

- ・班の仲間のために、自分の役割を果たす。

▲ / _____

（4）信仰、スカウトズOWNサービス

- ・信仰する教宗派の宗教儀礼に参加する。もしくは班や隊で実施する宗教儀礼、スカウトズOWNサービスに参加する。

□ △ ▲ / _____

（5）SDGsの取り組み

- ・日々の班会議でSDGsのいずれかの目標の取り組みについて評価する。

△ ▲ / _____

2 プログラム

（1）ジャンボリー日本プログラムに挑戦する。

□ / _____

（2）他の班や隊と交歓する。

□ △ ▲ / _____

すべてのパイオニア賞の課目を修了したことを認証する

_____年 月 日 隊長

【4】パイオニア賞にチャレンジ（ベンチャースカウト）

ジャンボリーに参加するベンチャースカウトは以下の課目に取り組むことで、「18NSJベンチャースカウトパイオニア賞」を授与する。

各課目が修了したら参加隊長もしくは原隊隊長の認定を受けてください。

1 第18回日本スカウトジャンボリーの目的、プログラムを理解し、ベンチャースカウトとして参加するスカウトたちへの支援を計画し、実行する。

／ _____

2 宗教儀礼、スカウトタウンに奉仕する。

／ _____

3 スカウトが取り組むSDGsプログラムを計画し、ジャンボリー期間中に取り組み、成果を仲間と共有する。

／ _____

すべてのパイオニア賞の課目を修了したことを認証する

_____年 月 日 隊長

【5】ジャンボリーのプログラムに参加するには

1 ジャンボリーのプログラムの参加手順

ステップ1 ジャンボリープログラムについて調べてみよう！

- ・ジャンボリープログラムをよく読んで、どんなプログラムがあるか調べてみましょう
- ・「ジャンボリーのプログラム」にある取り組むためのヒントを活用してみましょう
- ・サテライト会場や県連盟や地区の会場に参加するスカウトは、会場に用意されたプログラムを確認してみましょう

ステップ2 ジャンボリープログラムシートをつくってみよう！

- ・班員や仲間と相談して、それぞれのプログラムにどのように取り組むかを決めてみましょう
- ・取り組み方が決まったらジャンボリープログラムシートにまとめてみましょう

ステップ3 プログラムにチャレンジしてみよう！

- ・自分たちで決めたプログラムにチャレンジしてみましょう
- ・プログラムにチャレンジして、パイオニア賞の課目できたら、班長や上級班長にサインをもらいましょう

ステップ4 ジャンボリー広場に君たちの成果を発信みよう！

- ・さまざまなプログラムにチャレンジした成果を、【7】「ジャンボリー広場」のSNSを活用して発信してみましょう
- ・全国の仲間の活動を見て、刺激を受けたり、情報交換したり、全国の仲間とたくさん交流してみましょう

2 パイオニア賞にチャレンジ

- ① 「パイオニア賞にチャレンジ」を確認して、パイオニア賞の課目を確認してみましょう
 - ➔ 【3】「パイオニア賞にチャレンジ（ボーイスカウト）」
 - ➔ 【4】「パイオニア賞にチャレンジ（ベンチャースカウト）」
- ② それぞれ課目が、どのジャンボリーのプログラムでチャレンジできるか確認してみましょう
- ③ すべての課目ができたら、隊長に報告してパイオニア賞の認定サインをもらいましょう

3 ベンチャースカウトのプログラムの参加

ベンチャースカウトはボーイスカウトたちの先輩として、これまでのスカウト活動で身につけた技能を活用し、ボーイスカウトたちの手本であり、憧れの存在としてジャンボリーや隊キャンプ等に参加することが望まれます。

第 18 回日本スカウトジャンボリーに参加するベンチャースカウトは次の課目に取り組むことで、「18NSJパイオニア賞」を授与します。

取り組みのポイント

- ① ベンチャースカウトとしてジャンボリーあるいはジャンボリーに参加するスカウトたちにどんな支援ができるかがポイントとなります。野営生活を快適にするための支援・アドバイス、プログラム参加に向けたアドバイス、また、運営やプログラム運営の支援が具体的な動きとなります。
- ② 宗教儀礼、スカウト・OWN・サービスをベンチャースカウト同士、参加隊において、ベンチャースカウトとして行うことが具体的な取り組みとなります。
- ③ SDGs プログラムには、話し合い活動、社会貢献活動、環境保全活動、食についてなどのテーマ（取り組み、目標）がありますので、これらについて、ジャンボリー期間中に具体的な取り組みを計画し、実行していく内容となります。

【6】ジャンボリープログラムシート

共通プログラム



ジャンボリー日本一プログラム



パイオニア賞 課目2-(1)

取り組み内容：	
目 標：	
予定日時： 月 日 :	予定場所：



信仰奨励プログラム



パイオニア賞 課目1-(4)

取り組み内容：	
目 標：	
予定日時： 月 日 :	予定場所：



SDGs プログラム



パイオニア賞 課目1-(5)

取り組み内容：	
目 標：	
予定日時： 月 日 :	予定場所：

サテライトプログラム



野営生活プログラム

①

Wonderful Camp (快適なキャンプ生活)



パイオニア賞 課目1-(3)

取り組み内容：	
目 標：	
予定日時： 月 日 :	予定場所：

② Safety First (安全第一)



パイオニア賞 課目1-(3)

取り組み内容：	
目 標：	
予定日時： 月 日 :	予定場所：

③ One for All, All for One (チームワーク)



パイオニア賞 課目1-(3)

取り組み内容：	
目 標：	
予定日時： 月 日 :	予定場所：

④ Daily Good Turn (日々の善行)



パイオニア賞 課目1-(2)

取り組み内容：	
目 標：	
予定日時： 月 日 :	予定場所：



交流プログラム



パイオニア賞 課目2-(2)

取り組み内容：	
目 標：	
予定日時： 月 日 :	予定場所：



奉仕・社会貢献プログラム



パイオニア賞 課目1-(2)

取り組み内容：	
目 標：	
予定日時： 月 日 :	予定場所：

【7】ジャンボリー広場

※ジャンボリー広場での各種紹介は、パイオニア賞の各課目の修得条件ではありません

1 IT を活用して全国の仲間とつながろう！

各プログラムに挑戦したことを、「ジャンボリー広場」でSNSを活用し、全国の仲間を紹介できるようになっています。積極的に参加して自分たちの成果をどんどん発信してみましょう！
お互いの活動を見て、刺激を受けたり、情報交換したり、全国の仲間とたくさん交流しましょう！

そして、全国のいろんな班の活動の良いことはどんどん取り入れて、自分の班を良くしていくヒントにしてください。

もしも、キャンプ地の通信環境が悪かったら、キャンプの前や後の時間で、いろんな情報交換をしてみてください。キャンプ前に全国の仲間活動を参考にして自分たちのチャレンジを考えたり、帰ってきてから自分の隊の成果を全国のみんなに発信してみましょう。

ジャンボリー広場に参加するときは、必ず「ジャンボリー広場に参加のルール」守ってください。

ジャンボリー広場に参加するためのルール

広場の目的は交流や情報交換です。SNSはボーイスカウト以外の人も見ることを前提に、互いに安心してポジティブな交流ができるように、思いやりをもったコミュニケーションとろう！

(1) 発信をするときのルール

- ・事実でないことやその内容を載せないこと
- ・ふざけた写真、書かれて傷つけられる内容や、他の人が聞いて不快に感じる画像や言葉を使わないこと

(2) コメントやメッセージを送る時のルール

- ・批判や指摘、指導や注意（限られた情報であるため）、誹謗中傷する内容は送らないこと
- ・書かれて傷つけられる内容や他の人が聞いて不快に思う言葉を使わないこと

※ ジャンボリー広場に投稿されているすべてのものは、投稿者に許可なくSNSのコピー、転用はしないこと

2 ジャンボリー広場への参加の方法

ジャンボリー広場では、Twitter（ツイッター）やInstagram（インスタグラム）、Facebook（フェイスブック）などのSNSに、次の4つのテーマそれぞれのハッシュタグ（#〇〇〇〇）をつけて、自分たち活動の紹介や全国の交流する仲間を探しを投稿してみましょう。
広場のテーマごとのハッシュタグは次のとおりです。

3 ジャンボリー広場のテーマ

①SDGs活動紹介 ➡ #18NSJ#SDGs

- ・キャンプや活動の中で取り組んだSDGsの活動を紹介してみましょう

(記載事項)

県連盟、団名または地区名、班名または氏名(VS)、日時、場所、実施内容や感想、写真(任意)

②キャンプライフ自慢 ➡ #18NSJ#キャンプライフ

- ・快適で楽しいキャンプ生活を送るために行った創意工夫(サイトデザイン、野営工作物、野外料理、作業の工夫、班のルール、ソングの作曲、個人装備などなど)を全国の仲間に教えてあげよう

(記載事項)

県連盟、団名または地区名、班名または氏名(VS)、自慢内容、写真(任意)

③チームワーク・仲間自慢 ➡ #18NSJ#チームワーク

- ・キャンプ生活で、みんなに誇れるようなチームワークや仲間の行動を、全国の紹介しましょう

(記載事項)

県連盟、団名または地区名、班名、仲間の氏名、自慢したい内容・感想など、写真(任意)

④18NSJ交流掲示板 ➡ #18NSJ#交流掲示板

- ・交流掲示板で話したい仲間を探し、隊長の協力を得て全国のスカウト仲間とコンタクトをとろう
メールやラインでメッセージのやり取りをしたり、ZoomやMeet、Skypeなどの会議アプリケーションを活用したリモートミーティングをして、情報交換や交流活動をしましょう

(記載事項)

県連盟、団名または地区名、班名または氏名(VS)、プロフィール・メッセージなど、隊長連絡先



プログラムヒント

① ジャンボリー日本一プログラム

ジャンボリー日本一プログラムは、17NSJに企画・実施され、その後18NSJ、19NSJと継続的に実施するものとして位置づけられています。

18NSJでは、前回までの実施方法を基本的には踏襲しつつも、異なる環境であっても公平に競えるようなルールで行います。また、今回は参加班の事前（大会前）の取り組みも重視しています。

今回のジャンボリーは、これまでの大会とは異なり、いつも活動している「班」で参加できます。つまり、日頃の「班」の活動成果を全国の相手に発揮し競い合える、またとないチャンスなのです。

対班競点は、競い合い自体が1つの目的なのですが、もう1つの目的に、班員それぞれの能力を発見することがあります。技能の高まりを自分たちで認め、他の班と競うことで互いに認め合い、それぞれの得意不得意を明らかにし、不得意をどのように解決していくか考えていくことをねらっているのです。

ぜひ、このジャンボリー日本一プログラムに参加するというチャンスを活かして、「スカウティングはゲームである」「班の自治」と「自分の開発」という本来のスカウティングに取り組んでみてください。日本一プログラムには、次の3つの競技プログラムがあります。

- 1 わが旗かざし「班旗立て」
- 2 火を絶やすな「火おこし」
- 3 ジョン・ブラン「手旗信号リレー」

【記録のエントリー】

各競技にチャレンジした記録をエントリーしてみましょう。エントリーは、下記のアドレスのGoogleフォームで入力します。

➡ <https://18nsj.scout.or.jp/program/best-in-japan>

【記録の確認】

各競技の記録は、ジャンボリー広場にある「日本一プログラムランキング」に入力して、自分たちの記録の順位を確認することができます。

➡ <https://18nsj.scout.or.jp/program/best-in-japan>

【各競技の説明】

1 わが旗かざして「班旗立て」

● プログラム概要

班対抗のタイムトライアル

用意された材料で、班旗を作成・自立させ、かつ、より高く（3m以上）立てる

プログラムのねらい：

- ① チームワーク、協力
- ② 身に付けた結索の実践

● 実施条件

実施場所：指定された場所（約10m×10mもしくは直径10mのエリア）

参加班の人数：（5人以上*）8人以下／班（班員の人数の違いによるハンデはありません）

*基本は5人以上としますが、実際の班の状況を考慮し5人未満での参加も可能とします。

プログラム所要時間：約45分（準備、後片付け含む。内、競技時間は約25分）

● プログラム内容（ルール）

- ・ 3本の棒を紐で縛り、班旗を棒の上端に取りつけ、つなぎ合わせた「班旗」を作って自立させる競技です。
- ・ 繋いだ班旗の高さ（班旗の接地点から班旗棒の上端まで）は3m以上とします。
- ・ 棒をつなぐ、ペグに紐を掛ける、ロープ同士をつなぐ…に使用する「結び」の種類は任意とし、参加する班で考えます。
- ・ 完成「宣言（できました!）」から15秒間自立（スカウトが手を離れた状態）して、競技終了。
- ・ 競技終了後に、高さの計測をして、基準を満たせば「合格」となります。
- ・ 競技の制限時間は25分間、開始から完成までの所要時間を競い合います。

2 火を絶やすな「火おこし」

● プログラム概要

班対抗のタイムトライアル

用意された材料でかまどを作り、持参した薪等をセットして火をつけ、麻なわを焼き切る。

プログラムのねらい：

- ① さまざまな条件下で確実に火をおこし、また火をコントロールする。
- ② チームワーク

● 実施条件

実施場所：指定された場所（約2m×2mのエリア）

参加班の人数：（5人以上*）8人以下／班（班員の人数の違いによるハンデはありません）

*基本は5人以上としますが、実際の班の状況を考慮し5人未満での参加も可能とします。

プログラム所要時間：約45分（準備、後片付け含む。内、競技時間は約25分）

● プログラム内容（ルール）

- ・ 各会場で用意された材料で、かまどを作ります。
- ・ 土嚢袋に入るだけの薪と、ジップロック（イージージッパー Lサイズ 279mm×268mm。または同等品）に入るだけの焚き付けを参加する班で用意し、かまどに薪等を組みます。競技中に「ナタ

等刃物で薪等を切る・割る」はできません。

- マッチ 2 本以内で火をつけ、火を育て、上部に張った麻なわを焼き切ります。うちわや火吹き筒等を使って空気を送ることはできません。
- 競技時間は 25 分間で、スタートから麻なわが焼き切れ、2 つの重石が地面に落ちて着くまでの所要時間を競います。

3 ジョン・ブラン「手旗信号リレー」

● プログラム概要

班対抗のタイムトライアル

手旗信号を受信して、次に送信リレーする手旗信号による伝言ゲーム

プログラムのねらい：

手旗スキルの実践

● 実施条件

実施場所：指定された場所

参加班の人数：最低 5 人以上 8 人以下／班（班員の人数の違いによるハンデはありません）

プログラム所要時間：約 50 分（準備、後片付け含む。内、競技時間は約 20 分）

● プログラム内容（ルール）

- 伝文（問題文）を手旗信号により発信スカウト①から（2 箇所の中継②③を経て）、ゴール④のスカウトに送り届け、それに解答する競技です。早く・正確にかつ確実に送受信し、かつ正確に回答するまでの時間を競います。
- 4 つのポイント（①スタート→②→③→④ゴール）に班のスカウトを配置します（ゴールには 2 人以上置きます）。
- ①地点でスタッフがスカウトに伝文を渡し、配置順に正しく送受信し、④地点のスカウトが①地点の担当者に解答用紙を提出するまでの所要時間を競い合います。

注意事項

- サテライトでは、3 つの日本一プログラムを実施することを基本としていますが、人数規模や会場の広さ、運営スタッフの人数等からサテライト会場ごとに決めます。
- ジャンボリーサマーは、基本的にクローズドの大会ですので、その大会の規模や日程等の要件により、日本一プログラムの 3 つ全てか、1～2 種類を実施するかは任意となっています。
- 準備品、競技のルール等の詳細は、大会公式ウェブサイトに掲載する 18NSJ 日本一プログラムガイドブックを参照してください。

➔ <https://18nsj.scout.or.jp/program/best-in-japan>



プログラムヒント

② 信仰奨励プログラム

信仰心を高めよう！

なぜ、信仰心が大切なのか？

むずかしい問いかけです。信仰や宗教が、生きていくには必要でないと考えている人もたくさんいます。では、信仰とはなんでしょう。信仰とは、簡単に言うと「信じる」ということです。

人は生きていくうえで、いろんなことを、何が正しいか、間違っているか考えながら行動しています。でも、わからないこと、答えが見えないことがたくさんあります。だから、人は正しい道に導きを与えてくれるものとして、「信仰」を大切にしてきました。神様や仏様の導きに素直に耳を傾け、自分の考え方や行動にしっかりと向き合うことで、正しい行いを探し求めてきました。目には見えない神様や仏様の教えや導きを素直に受け入れ「信じる」、そして自分の考えや行いが正しいか考えることが信仰です。

キャンプやハイキングで自然のなかに身を置くと、自然の大きな恵みや時には厳しい試練をたくさん感じる機会に出会うことができます。自然の目には見えない大いなる力に触れることで、自分を「生かされている」ことを感じるすることができます。目には見えない、簡単には頭で理解できない導きによって、自分がこの世に生まれ、生きていくことができていることを知るのです。その導きこそが神様や仏様の導きなのです。だから、神様や仏様のことは、生きていくための教えや導きなのです。

その導きを素直に感じる事ができたとき、自分がこの世に生まれ、生きることを大切にできるようになり、そしてまわりの人たちの「生」も大切にすることができるようになります。神様や仏様の言葉を信じて、自分の「生」を大切に、まわり人の「生」を大切にしようとする心、それが信仰心です。

スカウトは、他の人を幸せにすることで、自分も幸せに生きていける人になることを目指しています。だから、他の人を幸せにできる正しい行いをするために、信仰心を大切にします。

このジャンボリーのキャンプでも、きっとたくさんの信仰心を高める機会がたくさんあるはず。たくさん自然に触れ、たくさんの仲間と生活をする中で、積極的に信仰心を高めていきましょう。

信仰心を高める機会

- 18NSJ公式サイトには、信仰奨励のページがあるので、ぜひ見てみましょう。
<https://18nsj.scout.or.jp/program/faith-belief>
- サテライト会場や県連盟のキャンプなどで、自分の信仰する教宗派の宗教儀礼が開かれるのであれば参加してみましょう。教えについての理解や信仰心を深めるいい機会になります。
- 班や隊でスカウトタウンサービスを実施してみてください。キャンプ生活の中や集会の中で、いろいろな場面や環境を生かしたスカウトタウンサービスを自分たちで考え、自分たちの信仰心を深める機会をつくってみましょう。

スカウトウンサービス

スカウトウンサービスとは、スカウト自身が行う礼拝（祈りの時間をもつこと）のことです。

Scout's Own Service, of the Scout, by the Scout, for the Scout
（スカウトの、スカウトによる、スカウトのための、スカウト自身の礼拝）

とも言います。

つまり、スカウトが自分自身の意思で、自分たち行う礼拝であり、祈りの時間をもつことです。

- ・スカウトウンサービスは、いつ・どこで行ってもいいのです。
- ・スカウトウンサービスは、自由参加です。
- ・スカウトウンサービスは、どのようにやってもいいのです。

大切なことは、自分の意志で行うことと、祈りの時間を大切に作ることです。

みなさんの多くは、スカウトウンサービスを、キャンプの朝や集会の始まりで行うことが多いと思いますが、活動のいつでも行っていいのです。

ハイキングの途中で、嫌なことをすべて忘れてしまうような素晴らしい景色や、心が洗われるような澄んだ湖に出会うことができた時、夜寝る前にすべての明かりを落としたり頭の上に満点の星空に気づいたとき、そんな自然の素晴らしさを感じた時に、自然に生かされていることに感謝の気持ちをもつことができる祈りの時間を持つことができます。

雨が降ってびしょ濡れになって辛くなったとき、ご飯がうまく炊けず満足に食事がとれなかったとき、班の仲間とぎくしゃくしてしまったとき、落ち込んでしまったり、前向きな気持ちを持ってないときには、心を一度落ち着けて、自分が仲間のために何をしなければいけないか、しっかり自分の気持ちの向きを整えるための祈りの時間を作ることもよいでしょう。

祈りとは、良いことがあっても、悪いことがあっても、その時の自分の心の中に生まれた気持ちや自分の行いをしっかり見つめ、自分の気持ちと行いの方向を整える時間を持つことです。その時に、きっと、皆さんが信ずることが助けになると思います。

自分自身の心に静かに目をむけられるよう、その「きっかけ」が大切です。みんなで歌を歌うこともよいでしょう。自分が感じたことを聞いてもらったり、みんなが感じたことを聞かせてもらうこともよいと思います。決して、いわゆる「いい話」を聞く時間ではありません。もちろん、自分が感動した話があれば、それを聞いてもらうこともいいことです。ただ鳥の声や雨音など自然の音に、静かに耳を傾けてみるもいいかもしれません。心地よい風を肌で感じるだけでもいいのです。目を閉じて、仲間と手をつなぎ、仲間の大切さを感じることもいいでしょう。

皆さんがその時いいなと思う方法で、ほんの少し「祈る」時間作ることができれば、それでいいのです。旨いも下手も、失敗も成功もありません。その時間を仲間と一緒に作る大切です。

いろんなときに、みなさん自身が考える、いろんなスカウトウンサービスを班の仲間と行ってみましょう。



プログラムヒント

③ SDGs プログラム

まず、SDGsとは

すでにスカウトのみなさんは「SDGs」という言葉は知っているかもしれません。

ここ数年の間に学校も含め様々なところで「SDGs」という言葉を耳にするようになりました。

SDGsは「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」という英語の頭文字をとった略称です。



左の図のように17の目標が決められています。

例えば、目標1は「貧困をなくそう」、目標2は「飢餓ゼロに」、目標7は「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」と、さまざまな目標が設定されています。これらの目標は地球規模の問題を解決するための目標です。

地球規模の問題を解決するために、「誰一人取り残さない」という共通理念のもと、国際連合が加盟する193カ国が2030年までに目標の達成を目指し、国際目標として定められています。

ボーイスカウトのSDGsの取り組み

ボーイスカウトでもSDGsに取り組んでいます。SDGsの取り組みは日常生活やスカウト活動の中でも十分に取組むことができます。今まで、スカウト活動の取り組み(キャンプやハイキングなど)で、すでに取り組んでいることも

あります。例えばキャンプの食事作りでは、食材を大切に扱い、食材の廃棄を減らす(ゴミを減らす)取り組み、『目標2「飢餓をゼロに」』を実践したり、植物の生育に配慮したキャンプサイトの設営、『目標15「陸の豊かさを守ろう」』に取り組んでいます。

スカウト活動でSDGsに取り組むとき、右のような視点をもちながら、考え、行動できると思います。

SDGsの取り組みは、日常生活、スカウト活動にかかわらず、自分のこととして目標をとらえ、考え、行動を起こすすることが大切です。考えたことを仲間に話し、同じ考えや行動をしようとする人たちが集まって行動を起こせば、大きな力となって目標を達成できます。



SCOUTS for SDGs

- スカウトは、身の回りの地域社会に対して目を向ける。
- スカウトは、国際社会を体感し、地球上で起きている問題や課題を知る。
- スカウトは、自分ごととして考えつつ、仲間と相談する。
- スカウトは、自分にできることを考え、行動する。



プログラムヒント

④ ジャンボリー生活プログラム

素敵なキャンプライフを過ごすための手引

① Wonderful Camp（最高のキャンプ生活）

班で創意工夫をこらして、快適で最高のキャンプ生活にしましょう。便利な野営工作物をつくったり、キャンプに適した簡単だけど絶品の野外料理の開発、時間通りに作業が進む生活ルールなど、アイデア出し合って、日本中の仲間に教えてみましょう。

先輩スカウトの独り言 「ウッドクラフト！」

ウッドクラフトという言葉を知っていますか？ウッドクラフトとは「森林生活術」のことを言います。深い森や大自然の中で、自然にあるものを大切にそして最大限生かして自然とともに生活している人たちの技や知識をウッドクラフト言います。ボーイスカウトの創始者バーデン・パウエルは、アメリカのシートンという人からウッドクラフト教えてもらい、ボーイスカウトの活動に取り入れました。

スカウトキャンプの中では木や竹を使って工作物を作ったり、薪で火を焚いたり、最低限の道具で、身の回りの物を活かし、創意工夫で最高の生活を生み出していきます。まさにウッドクラフトです。

このジャンボリーでは、日本中で様々な環境でみんなキャンプをしています。それぞれの環境にあるものを、皆さんのウッドクラフトの技を生かして最大限生かし、創意工夫で最高のキャンプライフが生まれることを期待しています。

② Safety First（安全第一）

キャンプ中、「自分たちの安全は自分たちで守る」ために、班で安全や衛生に取り組む。事故やケガを起こさないために班でちゃんと話し合っただけで全員が必ず守らないといけないことを決めてみたり、事故が起きない方法を考えてみましょう。とくに、新たに取組まなければならない課題、新型コロナウイルス感染予防の方法を考えましょう。

先輩スカウトの独り言 「たちかまどの火床の高さはひざの高さ！なぜ？」

たちかまどの火床（火をたくところ）の高さは、ひざの高さにとよく言われます。ひざの高さは、背の一番低い班員の高さにととも言います。なぜかわかりますか？

もしも、火床が崩れてしまったり、かけていた鍋がひっくり返ったりしたとき、燃えたまきや沸騰したお湯が身体にかかる場所が少なくすむからです。

つまり、安全とは万が一のことが起こった場合、被害ができるかぎり小さく済むようにすること、そして一番大事なことは、仲間に危険な目に合わないよう考えて行動することです。

長いもの運ぶときはどうしますか？使っている刃物をちょっと置いておく時にはどうおきますか？水穴を掘るときにはどこに掘りますか？

仲間のことを大事に思って行動することが、一番の安全対策です！

そして忘れていけないことは、自分が事故に会わないことです！自分がケガをしたら仲間に迷惑がかかってしまいます。だから、「自分の身は、自分で守れ！」です。

③ One for All, All for One (チームワーク)

班で一番大切なことは言うまでもなくチームワークです。チームワークよくすることは簡単です。一人が仲間のために全力を尽くせることだけです！キャンプ生活の中で班の仲間のためにがんばっている素晴らしい仲間や、自分の班のチームワークのすごさをみんなに自慢しましょう！

先輩スカウトの独り言：「リーダーシップ・フォロワーシップ・フレンドシップ」

スカウティングには、三つの「シップ」が大切だと言われます。「リーダーシップ・フォロワーシップ・フレンドシップ」の三つです。

リーダーに「チームワークよく」って言われても、簡単にはチームワークは生まれません。

そこで大事なのが、この三つの「シップ」です。リーダーシップとは、みんなの行動をしっかり導くことです。班長や先輩として、班員や後輩が自分のやる事が「何のために必要なのか」「どのようにやったらいいか」きちんと伝え、やり遂げたらしっかり評価してあげることがリーダーシップです。面倒なことを力で押し付けるのは、リーダーシップではありません。

そして、リーダーの指示をしっかり聞いて、チームのためにベストを尽くせることがフォロワーシップです。フォロワーシップは大切です。フォロワーシップが果たせる人になって、初めてリーダーシップを持つことができるようになります。

最後に、ただ言われて行動するだけではなく、互いに思ったことを言い、そして相手の言葉に耳を傾けられるのが、どんなことも一緒に考え、一緒に悩み、一緒に喜べるのが、フレンドシップです。

班員全員が三つの「シップ」を持てたら、君たちの班は、最強のチームワークを持つことができますはずですよ。

④ Daily Good Turn (日々の善行)

スカウトであれば、毎日一つ以上善行をすることを心掛けています。とくにこのジャンボリー期間中には各自がキャンプ生活中に意識して、1日に1回以上善行に取り組んでみましょう。そして、みんながどんな善行をしているか発表しあってみましょう。良いなと思う善行があればどんどん真似してください！いいことは、他のひとがいくらまねをしても悪いことはありません。

先輩スカウトの独り言 「ネッカチーフの結び目」

スカウトの皆さんのほとんど、「スカウトは必ず一日に一つは良いことしよう」を忘れないようにネッカチーフの先に結び目を作って、できたら結び目をほどこくことを知っていると思います。初めて聞いた人は、覚えておいてください。普段の生活ではネッカチーフをしていないから、ハンカチの端に結び目を作ってもいいです。自分の方法を考えてもいいです。

スカウトのモットーである「日々の善行」で大切なことは、たくさん良いことをするのではなく（たくさんできたらそれはいいことですが…）、「毎日、必ずする」ことです。

それは、集会がない日でも君たちが、いつでもどこでもいつまでもスカウトであることを忘れないことになります。

毎日できている人は、ジャンボリー期間中にまだできていない人にその姿を示してあげてください。まだできていない人は、このジャンボリーを機会に、まずはキャンプ中、「必ず一日に一つは良いこと」を試してみましょう。



プログラムヒント

⑤ 奉仕・地域貢献プログラム

Creating a Better World

ボーイスカウトは世界の仲間とともに、「Creating a Better World」(より良い世界を築いていこう!)を目指しています。

スカウトは「ちかい」と「おきて」を実践し、「日々の善行」をモットーに善い行いを心掛け、人のために役に立つことを大切にしています。

さらに、もっと積極的に、地域のまたは国の市民として、そして世界の一員として、世界の人たちが幸せに生きていけるよりよい世界を築いていくために、行動することを目指しています。

これが、「Creating a Better World」です。

世界には様々な課題や問題があります。そのすべてをスカウトだけで解決することはできません。しかし、ほんのわずかでも、スカウトの精神と日ごろの訓練で得た知識、技能、そしてチームワークの力を発揮して取り組んでいくことで、世界をよりよくするリーダーシップを発揮することができます。

では、「世界をよりよくするリーダーシップを発揮」とはなんでしょう？

スカウトのみなさんは、よく清掃奉仕をします。道や公園、キャンプ場がきれいになることで、そこを利用する人が気持ちよく使えるようになります。人の役に立つ、善い行いです。でも残念ながら、また心無い行いをする人が、またゴミを捨てます。また汚くなります。また、清掃奉仕をすることも一つの手ですが、もしポイ捨てがなくなったら、いつもきれいな環境が保たれます。ポイ捨てをなくすにはどうしたらよいか、そのように問題や課題の解決策を考え、自ら行動を起こすことが「世界をよりよくするリーダーシップの発揮」であり、そして「社会貢献」です。

ときには、みなさんの力を求められることもあります。この求めに応えるのが、「奉仕」です。自分ちに何ができるのか、どこまでできるのかを、しっかり考えて行動することが大切です。

世の中は、いろんな立場、いろんな考え方の人がいます。いろんな立場や考えをしっかりと理解して、自分たちの行動に責任を持つことも必要です。

行動するときには、先輩やリーダーなど、いろんな人に相談することも大切です。

スカウトのキャンプは一つの社会と同じです。キャンプ場の環境や共同生活で、素晴らしいキャンプ生活を送るために自分たちになにができるか、班の仲間と考えてみましょう。トイレ、水場、ごみ捨て場、通路など、共同で使う場所の使い方や、自然を大切にするための自然保護など、周りをよく見れば、スカウトの皆さんにも取り組める課題はきっとあると思います。このジャンボリーで、どんな小さなことでも、キャンプ地における自分たちの身の周りに関心を持ち、みんながより良い環境を持てるために、自分たちでできることを考えて、行動してみましょう。

※ キャンプ期間中の実施がむずかしい場合は、ジャンボリーサマー期間中に、地域で取り組むこともできます。



プログラムヒント

⑥ 交流プログラム

ITを活用して交流しよう！

ジャンボリーの楽しみの一番は、何ととってもたくさんの仲間と交流することだと思います。サテライト会場や県連盟の会場では様々な交流行事がありますが、今回はいろんな場所で参加するジャンボリーになるので、ITの力を使っていろんな形で、全国の班やスカウトと交流をしてみましょう。

つながり方は、たくさんあります。メールやライン、ZoomやGoogle MeetなどのWeb会議アプリなど、たくさんの便利な方法があります。

キャンプ地の通信環境が悪かったら、キャンプに行く前と終わった後で、交流する方法もあります。キャンプに行く前にお互いに同じチャレンジすることを決めて、終わってから互いの成果を紹介してみるのも面白いと思います。合同班集会を開いたら、楽しい班集会ができます。

ジャンボリー期間中には、【7】「ジャンボリー広場で」日本中のさまざまな活動の紹介があります。興味をもった工作物や活動があればコンタクトをとって、交流してみることも面白いと思います。

自分たちの班や仲間の紹介、活動の自慢、地元紹介など、いろいろな情報交換をしてみましょう。積極的に交流を深めると、皆さんの活動に役に立つたくさんの情報が手に入るはずですよ。

メールやライン、ZoomやGoogle Meetなどのリモート会議アプリなど、使い方や利用環境がむずかしいときには、リーダーに協力してもらいましょう。

ITを使ったコミュニケーションには、様々な危険もあります。思いもよらず、相手に不快な思いさせたり、傷つけたり、場合によっては自分たちが危険な目にあうこともあります。ITでは、ボーイスカウト以外の方にも情報が見られるようになります。野外活動と同じように、正しい使い方を勉強して、安全にコミュニケーションをとりましょう。

リモート会議アプリの使い方

ネット上でたくさんの使い方の動画や説明があります。活用してみましょう。

Zoom の使い方

https://www.youtube.com/watch?v=ex_LCYQhR3Y

Google Meet の使い方

<https://www.youtube.com/watch?v=UDLiwzlvbFk>

【指導者の方へのお願い】

スカウトによる主体的な活動を

本大会は、分散開催という新たな形での開催となりますが、これまでのジャンボリーの趣旨に沿って、班制教育と各種の進歩制度と野外活動など、スカウト教育の基本を重視した質の高いスカウト活動をおとし、「ちかい」と「おきて」の実践を促進させる機会として、また、設定されたプログラムに参加することにより、新たな発見や感動を体感するとともに、スカウト同士の友情の絆を結び、参加者相互との交流を通じて、青少年の自己成長を促すための我が国スカウト運動最大の教育イベントとして開催されます。

特に、この2年あまり間、野外での活動や対面活動、とりわけボーイスカウト、ベンチャースカウト部門にとって大切な野営が経験できていない現実を踏まえ、スカウティングの原点であるスカウトが互いに刺激しあいながら成長する班制教育を大事に、仲間とともに自ら考え、自ら動き、挑戦していくプログラムを展開します。

それぞれスカウトが、様々な環境や条件のキャンプ生活の中で、「自分たちで作り上げていくプログラム」に参加し、合わせてジャンボリーの大きな目的である、多くのスカウト仲間との出会いと交流を通してたくさんの刺激を受けて、これからの100年のスカウティングに向けて意欲的で、活動的なスカウティングにつなげていくことをねらいとしています

以上、本大会のプログラムの趣旨をご理解いただき、すべてを指導者が決め、指導者がコントロールしたプログラムにならない様、時には見守り、時には自ら困難を乗り越えるための暖かいきっかけを与え、スカウトが主体的に取り組み、自分の力で大きな達成を得られる環境づくりをお願いいたします。

さまざまな環境でのプログラム展開

本大会では、サテライト会場、県連盟の会場、地区の会場、各隊でのキャンプと様々な環境でのプログラムが展開されます。プログラムの参加にあたっては、違いがあることを理解し、より柔軟な姿勢で対応いただきますようお願いいたします。

特に、日本一プログラムやパイオニア賞の取得にあたっては、スカウトとして「ちかい」「おきて」に基づいた、誠実な態度と行動でプログラムにチャレンジできるよう、指導をお願いいたします。

① 日本一プログラムについて

- ・分散開催のため、すべてが同じ条件での競技ではないことを大前提にして、スカウトが自身の誠実と公平に基づいてフェアプレーで臨めるようご指導ください
- ・記録の登録にあたっては、スカウト精神に基づいた申告されることを前提としています。隊長の名のもとに、正当に入力されたものとして扱います。

② パイオニア賞の認証について

- ・分散開催のため、すべてが同じ条件での協議ではないことを大前提にして、進歩科目の取り組み同様、隊長の判断のもとスカウトの成長の観点、スカウト精神の発揮など様々な角度からの評価に基づいて、柔軟な取り組みと認証をお願いします。
- ・課目の認証にあたっては、班長、上級班長認証課目については、当該認証者がサインするようにしてください。スカウトのリーダーシップの発揮の機会を大事にしてください。

参考 パイオニア賞認定についての解説

インターネット、SNSの適切な利用のための指導を

本大会では、分散開催の中で各地のスカウトが交流活動を行うために、ITを活用したプログラム展開をします。

キャンプの中には、通信環境が整っていないと、インターネットへの接続ができない場合もあります。その場合は、ジャンボリーサマー期間のキャンプの前後でアクセスして交流を図ってください。

本大会は、プログラムのすべてをITにて行うものではありません。スカウトがITを必要な場面で柔軟に活用できるようご指導ください。

また、各プログラムでの成果を、SNSを活用して発信をしたり、またはZoom等の会議アプリを活用して全国のスカウトとの交流活動を進めます。

コミュニケーションツールでは、配慮不足で人に不快を与えたり、傷つける結果を生むことがあります。セーム・フロム・ハームの原則に追って、適切なIT活用がされるよう、ご指導をお願いします。

参考資料 パイオニア賞認定についての解説

《認定区分》

□…隊長認定 △…上級班長認定 ▲…班長認定

【ポイント】課目により、隊長、上級班長、班長が認定できるようにしました。班長が認定する課目を班長が取り組んだ場合は、上級班長もしくは隊長が認定をしてください。また、上級班長を設置していない場合や何らかの理由で認定者が不在などの場合は、隊長が認定するなどの判断をしていただいで結構です。できるだけ上級班長や班長という役務をもったスカウトが、責任をもって班員の課目の取り組みを評価し、認定する仕掛けをすることは教育的意義があると考えます。

1 基本

(1) 「ちかい」と「おきて」の実践

- ・ジャンボリーの生活の中で「ちかい」と「おきて」を実践していることを班長会議で認めてもらう。

□

【ポイント】班で日々の出来事を振り返り、班で話し合ったこと、班員一人一人の取り組みや感想を班長会議で報告し合うなどの場面で、「ちかい」と「おきて」の実践について認めるなどの取り組みが大切です。この課目の認定は隊長ですが、上級班長の意見を聞いて認定するなどの手続きにより、上級班長に班長会議での役割や進め方を意識させ、スカウトの活動への取り組みの把握を促すことは上級班長の育成にも役立つと考えます。

(2) 日々の善行（奉仕）、貢献活動

- ・ジャンボリー期間中、1日1回以上善行に取り組む。 ▲
- ・キャンプ地周辺の地域に対し貢献活動を班で企画し、実施する。 ▲

【ポイント】「ジャンボリー期間中、1日1回以上善行に取り組む。」の課目については、スカウトが個人の取り組みとして課目設定しています。自分のための行いではなく、「神（仏）へのつとめ」「他へのつとめ」に視点をおき、個人の善行を考え、実行するよう御指導ください。

「キャンプ地周辺の地域に対し貢献活動を班で企画し、実施する。」の課目は、スカウト精神、スカウト技能を發揮し地域への貢献活動を班で企画し、実施することがポイントです。班の編成が難しい場合や複数の班で取り組むことで活動の成果が得られると考えられる場合は、班長会議で話し合い、スカウトの総意により企画、実施することでもよいと考えます。この判断は隊長にお任せします。

(3) ジャンボリーの生活

- ・キャンプ生活を快適するために、班で話し合い、日々の改善に取り組む。 △
- ・キャンプ生活の環境衛生（感染症感染予防、サイト内の整理整頓など）に取り組む。 ▲
- ・班で話し合い、キャンプ生活に役立つ、工夫されたキャンプ工作物を作成する。 ▲
- ・班の仲間のために、自分の役割を果たす。 ▲

【ポイント】ジャンボリー中、快適で安全なキャンプ生活をするための課目です。これまで身に付けたスカウト技能を發揮し、環境に配慮しながら、自分たちのキャンプ生活を設営し、日々の改善により快適なキャンプ生活を送ることがねらいです。班内の役割分担、協力し合うことも大切な課目認定の要素です。工夫されたキャンプ工作物や美味しい食事などは評価し、称賛をお願いします。

(4) 信仰、スカウトカウンセラーサービス

- ・信仰する教宗派の宗教儀礼に参加する。もしくは班や隊で実施する宗教儀礼、スカウトカウンセラーサービスに参加する。 □ △ ▲

【ポイント】宗教儀礼について情報提供を行っていただける教宗派もあります。インフォメーションやアプリ等で情報提供いたします。また、班や隊でスカウトによるスカウトカウンセラーサービスを実施することもよいと思います。班長会議でスカウトカウンセラーサービスのテーマを決め、そのテーマについて代表のスカウトが話をしたり、もしくはスカウト一人一人が

コメントをするなど様々な取り組みができます。スカウトカウンセラーサービスを実施するにあたり、ソング、役割分担などをスカウトが話し合って決めることは、スカウト自身が取り組むスカウトカウンセラーサービスにつながります。また、宗教儀礼やスカウトカウンセラーサービスはキャンプ期間中1回とは限りません。朝や夕方、活動の合間に短時間でも心を落ち着かせ、静かな時間をもつためにスカウトカウンセラーサービスを設定することもいいと考えます。

(5) SDGsの取り組み

- 日々の班会議でSDGsのいずれかの目標の取り組みについて評価する。 △ ▲

【ポイント】17の目標の中から、キャンプ地の環境、スカウトの経験、SDGsの理解度に合わせて、ジャンボリー期間中に実際に行動を起こせる目標を選択し、実行することがポイントです。例えば「2飢餓をゼロに」という目標であれば、食品ロスを発生させない献立や調理の工夫に組み込み、日々の食事作りで出るゴミの量を計量し、記録をするなどの取り組みが考えられます。スカウト自身ができることに取り組むことが大切なポイントであると考えます。また、このような取り組み以外にも、17の目標の中から1つ目標を選択し、その目標について将来どんな取り組みができるかを班内で話し合い、隊の中で発表するなどの活動も考えられます。

2 プログラム

(1) ジャンボリー日本一プログラムに挑戦する。 □

【ポイント】ジャンボリー日本一プログラムを3種目すべてに挑戦する必要はありません。サテライト会場やキャンプ地の環境・条件により、プログラム展開ができない場合があります。また、認定にあたり記録の報告は必須条件とはしません。ジャンボリーや隊キャンプの事前準備、訓練でジャンボリー日本一プログラムの練習をすることで認定可能とします。

(2) 他の班や隊と交歓する。 □ △ ▲

【ポイント】交流、交歓は対面、オンラインなど様々な方法が考えられます。サテライト会場であれば近隣の隊や班と交流、交歓することもできます。さらにネット環境がある場所であれば全国で展開されるサテライト会場や隊キャンプ等と交歓することも可能です。スカウト仲間、ジャンボリーを感じることでできる交歓プログラムを展開してください。

パイオニア賞の認定について まとめ

- パイオニア賞の課目はジャンボリー期間、ジャンボリーサマー期間、隊キャンプ期間に取り組むことができます。
- サテライト会場、キャンプ地の環境や条件で実施可能なプログラムや取り組みにより、課目の認定をお願いします。
- 示されている認定者（隊長、上級班長、班長）が何らかの理由により、認定者として設定できない場合、認定の責任者は隊長です。隊長の御判断で認定を行ってください。
- パイオニア賞の取り組みについては、スカウト個人の取り組み、班会議、班の活動、班長会議の取り組み、上級班長の関わりを意識して課目設定をしています。様々な取り組みをとおして、班制度の機能、進歩制度、役割分担によりスカウト教育の目的を達成できるよう課目の設定、認定方法を定めました。条件によって課目の取り組みが難しい場合、趣旨を御理解いただき上で隊長の判断により柔軟に対応してください。
- パイオニア賞はチーフリングです。各隊にはスカウト数分を大会前もしくは期間中に配布いたしますので、すべてのパイオニア賞課目の認定が済んだスカウトに順次隊長から授与をお願いします。